

VOL.6

MONTHLY

UP

Useful
Printing
Information

印刷に関する用語、こぼれ話
業界のトレンドなどの情報を
毎号ご紹介していきます。



次号では、
色の分解についてを
予定しています。

SEZAX

本社・工場	〒146-0091 大田区鵜の木2-9-7	☎03(3758)2511(代)	☎03(3758)2754
		営業専用	☎03(3758)2544
渋谷コア	〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル	☎03(3400)9211(代)	☎03(3409)7315
八丁堀コア	〒104-0032 中央区八丁堀2-19-8 八丁堀ビル6F	☎03(5566)1061(代)	☎03(5540)8304
マニュアル企画部	〒146-0092 大田区下丸子3-8-6 ブルーハイツ	☎03(5482)2751(代)	☎03(5482)2777
下丸子工場	〒146-0092 大田区下丸子2-20-4	☎03(3758)2510(代)	☎03(3758)8850

株式会社セザックスクリエイティブ			
	〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F	☎03(3409)4970(代)	☎03(3409)2732
株式会社セザックスインターナショナル			
	〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F	☎03(3409)0527(代)	☎03(3409)6610



この小冊子には環境にやさしい大豆インクを使用しています。

この小冊子は再生紙を使用しています。

印刷品質を高める
第5の色
特色



“特”色というくらいですから、それが例外的なケースであることは想像していただけたと思います。特色の話をする前に、まずは“特”ではないスタンダード、つまり印刷における色表現の基礎について紹介しておかなければならないでしょう。

いわゆるオフセット印刷では、無限ともいえる色の世界を、わずか4色のインキで表現しています。それは、イエロー（黄）、マゼンタ（紅）、シアン（藍）、ブラック（黒）を加えた4色。「たったそれだけ？」と驚く方も多いかもしれませんが、図を見ていただくとわかるようにイエローとマゼンタとシアンの配合次第で、基本的にすべての色を作ることができるのです。

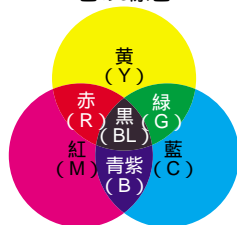
印刷品質を 高める 第5の色 特色

「特色」という言葉があります。一般には他と違って優れていることを示す言葉ですが、

印刷業界で使われる「特色」はそれとは違う意味を持っています。

今回は、お客様からのお問い合わせも多いこの「特色」について解説します。

色の3原色



これは、イギリスのヤングとヘルムホルツによって提唱された『3原色説』の理論に基づいています。この3色をフォローするのがブラックで、たとえば写真のコントラストを高めたり、文字をより鮮明にしたり、表現範囲の拡大と発色の補正のために使われています。

さて、本題の「特色」についてですが、それには文字通り「特別な色」という意味と、もうひとつ「補色」の意味があります。“特別な色”というのは、イエロー、マゼンタ、シアン、ブラックの4色のインキの配合では出せない色のこと。金や銀、蛍光色などがその例です。これらは特色インキを使って印刷するしかありません。また、コーポレートカラーの印刷といった、特別なケースにも特色が使われます。企業の顔であるコーポレートカラーは、安定性が求められるデリケートな色。印刷のたびにインキを掛け合わせるのではなく、コーポレートカラーを特色インキとしてストックしておき、毎回それを使って印刷すれば、バラつきのない安定した色が出せるというわけです。

一方、特色による“補色”というのは、色の再現性を高めるための技法といえます。肌の色をよりリアルに再現したい、海の色をより美しいブルーで再現したい。たとえばこうした場合に、肌の色のときは「薄赤」、海の色ของときは「薄藍」、というように特色インキで色を補います。従来の4色に特色をプラスした5色のインキで印刷することによって、奥行きのある色表現ができるというわけです。

金色や銀色の印刷で目を引く。コーポレートカラーを徹底する。つややかな肌を再現する。このように、「特色」をうまく活かすことが、印刷物の特色になるといってよいかもしれません。

このページの地色は特色で印刷されています。

